

クロスレンチ業界が震撼！



ガトコ
逸品

走り屋たるもの、車載工具に入っているL字型レンチではなく、より効率的に作業を進められるクロスレンチのひとつくらいはトランクルームに転がっていることだろう。しかしその形状もあって積載性は悪く、なにかしら固定しておかないと走行中にガチャガチャうるさく、状況によっては荷物や内装を傷つけてしまうものだ。

エーモン イージーパワーレンチ

実勢価格：2500～3500円（※OPT編集部調べ）
© エーモン工業 <https://www.amon.jp>

既存のクロスレンチと比べ、積載性や作業性のすべてを凌駕したと言っても過言ではないポテンシャルを誇る「イージーパワーレンチ」。薄口形状のソケット（差込角12.7mm）には17mm、19mm、21mmが付属。ある意味“全部入り”の極上レンチなのである。これから先、数十年はこのアイテムを上回る手動式ホイールナットレンチは登場しないだろう！（クロスレンチ歴33年 シキ先輩 談）

クロスレンチは便利だが危険な相棒ともなり得る
走るのが楽しくてタイヤの摩擦に気付かずパンク。コーナーのインをデットに攻めすぎてバースト。そんなシチュエーションが日常茶飯事の走り屋であれば、クロスレンチは必需品だ。しかし冒頭でも述べたようにクロスレンチってのは、その積載方法に悩んでしまうアイテムとして常に上位にランキングしている。そんなシキ先輩も内装ドンガラのAE86でブイブイ走っていたバトル時、トランクルームでクロスレンチが暴れまわってしまい、左からの右に振り返りS字コーナーをクリアしようとした瞬間、ゴキーンゴキーンという音がトランクルーム付近から。イヤな予感がしないでもない。その後メイン会場から離れ、自販機を見つけたのでいつもの



コロムブスの卵!

amon
EASY POWER WRENCH



軸手となるグリップ部が回転構造となっているので、その空転力を活かして軽快な作業を実現。またナットが硬くカシまっている等のケースでは「パワーレンチモード」へとトランスフォームさせることでパワーアップ! 難なくナットを緩めることが可能となる。

使って感動の 積載性&操作性!



クロスレンチモードとパワーレンチモードがワンタッチで切り替えられる秘密は、レバー側の中央部と端部の2箇所にチェックボールが装備されていて、それがグリップ差込部に座繰られている溝にカチンと嵌る構造になっているからだ。

ポイント! その2

金属部や赤いケース部が剥き出しにならないようにと、ポリエステル布が良い仕事してくれる。俺たちが四半世紀以上も待っていたのは、こういう気が利きまくった逸品だ!!



スタイルで一服。(OPT5月号112ページ参照) 予想はしていたものの、実際に助手席側のリヤクォーターが凸凹になっているのを見つけてしまうと、大好きなポッカコーヒのキレとコクは無味となっていた。

ケース入り&クルクルグリップ
これってエポックメイキング!!

そこにきて、走り屋DIY派なら絶対一度はお世話になった、汎用「取り付けステー」(商品名: 取付金具)や、配線などでお馴染みのエーモン。昔からカユイ所に必ず手を差し伸べてくれていた、あのエーモンがまたまたやってくれた! シキ先輩的にはクルマの発明以来不変の構造を維持している「ワイパー」並みの発明品と断言。ここから先、数十年にわたってスタンダード&トラッドモデルとなるであろう「イージーパワーレンチ」を産み出したのだ。

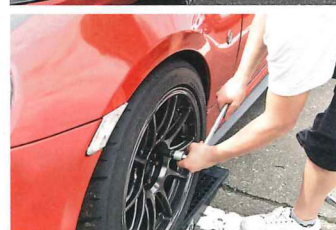
ハンドルバーとグリップ部をセパレートにすることで、スマートなポリプロピレン製の専用ケースに収め積載性を向上。さらにそのケースをポリエステル布で覆って、他の積載物への攻撃性をも封じ込めるという工夫がされている。この要素だけでも嬉しいが、ミラクルはまだまだ続く。

ホイールナットを外す際にその軸となるグリップ部に回転構造を採用することで、緩める瞬間やグイッと締め込む時以外はクルクルクルと、ハンズフリーで回転させることができる。さらに、カシまってしまったホイールナットを緩めたい時に威力を発揮する「パワーレンチモード」にすれば、ハンドル部をカカトで蹴り下ろすなどといった野蛮な姿を見せず、涼しい顔でナットを緩ませることができの。だ。いや、コイツはマジで凄いいレンチだぜツ!!



「パワーレンチモード」

デコの原理で、およそ2倍の回転トルクを出せるパワーレンチモードが頼もしい!



「クロスレンチ&L字レンチ」

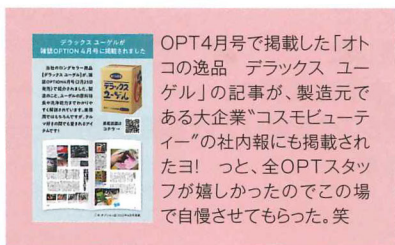
クロスレンチを愛用している走り屋は9割以上。車載工具でお馴染みの「L字レンチ」はナットを傷める危険性もあるので、クロスレンチ等を忘れた時の緊急時以外は使わないのが得策だ。



これはマジで
買いっすネ!!



今回のフィーリングテストで協力してもらった石塚くんは某自動車メーカーに勤める工具精通者。自身もクロスレンチの積載方法に苦勞していた様子。愛車の86ではテンパータイヤの保護用発泡スチロールを削ってマウントしていた。これはこれでナイスアイディア!



OPT4月号で掲載した「オトコの逸品 デラックス ユーゲル」の記事が、製造元である大企業「コスモビューティ」の社内報にも掲載されたヨ! っと、全OPTスタッフが嬉しかったのでこの場で自慢させてもらった。笑